

# ボクとワタシの ことば ばなし 第3話

## 目 次

◆負けない「です」の物語	2
♪「です」を使った女性たち♪	2
♪世紀の新語・流行語大賞♪	2
♪簡単明瞭でゴメンネ♪	3
♪近代女性ことばのエース♪	3
♪「いらっしゃいませ」的命令♪	4
◆ちょっと困った「新東京ことば」	4
♪「ヤバイ」のは、あなたたちよ！♪	4
♪短文化の悪しき副産物♪	5
♪楽しんじゃえる ことばたち♪	5
♪言って良いこと悪いこと♪	6
◆言語スイッチの切り替え	6
♪ローマ字表記の日本語は♪	7
♪アルファベットは「第二の漢字」♪	7
♪日本語メタボへの対処法♪	7
◆“I think” と「思う」の対話	8
♪「思う」という日本語♪	8
♪理屈に弱い日本語♪	9
♪「考え」を伝えるために♪	9

ボクとワタシの  
ことば ばなし 第3話

シンキング・バース

日本語研究班

負けない  
「です」の物語

ワ タシがこの教室でお話している日本語は、「です・ます体」です。「丁寧語」と呼ばれています。みなさんもたぶん、学校の発表とか、お仕事の会話で、普段から使っている日本語だと思います。きちんとお話する場面では、ほとんどの人が、「です・ます体」でお話します。

「です・ます体」って、古くから丁寧語だったと錯覚している人が、多いかもしれませんね。でも、本格的に丁寧語になったのは、日本が戦争に負けてからのことでした。それまでは、「～です」も「～ます」も、軽く見られることばだったようです。

特に「～です」は、お下劣語みないに扱われていました。「～であります」とか、「～と申します」に比べると、「～です」の地位は、ずっとずっと低かったんです。今回は、そんな「～です」の物語です。

## ♪「です」を使った女性たち♪

時

は明治、世は「文明開化」とか言っていた頃、「～です」は、東京の片隅でひっそりと使われていました。使うと素性がバレ

てしまうと言われるほど、蔑まれることばでした。下品、汚い、卑しいなどなど、商家の人でさえ「～です」を使うと、厳しくたしなめられたとされています。

どうしてかと言うと、「～です」は、男性を相手にするお商売、つまり、お水なお商売の女性たちが、主に使っていたことばだったからです。格式が高い吉原には、「～ありんす」ということばがありました。「～です」は、それよりずっと低く見られてた女性たちのことばでした。

彼女たちのお客様は、商家のご主人もいれば、元お武家様もいました。地方から東京に出て来て、お遊び気分楽しんで行く男性たちもいたことでしょう。彼女たちの共通語は、外では通用しないけど、その街では立派に通用する「～です」でした。

ことばって、とても感染力の強い生き物です。「～です」は、彼女たちからお客様の男性たちの間に、徐々に広がって行きました。

## ♪世紀の新語・流行語大賞♪

日

本語文法で「～です」は、断定の助動詞です。「～だ」「～である」のようなことばと同じ位置づけで、現在は丁寧な断定語に分類されています。

「～です」は、「～げす」とか、「～だす」とか、「～でっせ」のようなことばが

## ボクとワタシの ことば ばなし

素になっていると考えられています。「～げす」や「～だす」は男性語に近いのに対して、「～です」は女性語的な色合いが強いことばでした。

日本語は、東京・山手の元お武家様（士族）が使っていたことばを基準に作られました。一昔前までは「標準語（Standard Language）」なんて言われて、「町人ことば（People's Language）」と区別されていました。「町人（平民）ことば」が「標準語」になることは、基本的にはあり得ませんでした。しかも、身分が低い女性たちのことばが「標準語」になるなんて、もってのほかだったでしょう。明治時代は、近代化とか言いつつも、身分制があった時代だったんです。

たぶん初めの「～です」は、禁句に近いことばでした。元お武家様が「～です」なんて言おうものなら、「そのような下品なことばを、どこで覚えられたのでござりますか」とか言われたことでしょう。

でも、そんな元お武家様たちにも、「～です」は、食い込んで行きました。大正時代には、それなりに大手を振って話せることばになっていたと考えられます。民衆のことばを使った日本語づくりが、雑誌『赤い鳥』などを舞台に活発になったからです。公式には認められないけれど、巷では大流行、「～です」は、当時の新語・流行語大賞なんです。

## ♪簡単明瞭でゴメンネ♪

**だ** けど、不思議ですよ。女性たちのことばならば、「～わよ」とか、「～かしら」のように、女性限定語になってもおかしくないのにね。どうして「～です」は、女性語の枠を、飛び越えちゃったんでしょうね。

ワタシの考えでは、日本語の断定用法と関わっていると思います。明治時代の男性語の場合、何て言うか、回りくどい言い方が好きみたいで、「～なのであります」「～なのでございます」のように、そんなんじや日が暮れっちまわア・・・的な言い方をしていました。「～ござる」「～おわす」のような言い方もあったでしょう。堅苦しいし、面倒くさいんですね。何をどう使い分けるのかも、こんがらがっちゃいます。要するに、日本語の断定の助動詞は、問題だらけだったんですね。

それに比べて、「～です」は、簡単明瞭です。英語の“is” “am” “are” が、「～です」で片付いちゃんだから、使い始めたらもうヤミツキです。ことばを選ぶ余計な気遣いも無用ですし、「～げす」や「～だす」のように、男性から見た引いちゃう感もありません。それに、女性語だから丁寧に響くんですね。こんなに簡単便利で論理的なことばを、使わない手はありません。訳の分かんない翻訳語を作った、明治時代の知識人（ゴメンネ）より、「～です」を使ってた女性たちの方が、よっぽど賢いとワタシ的には思います。

## ♪近代女性ことばのエース♪

**そ**

の時代の新語・流行語が、一時的なブームで終わらず、長く使い続けられるのはまれです。

テレビが普及し始めた頃、当時のアナウンサーたちは、「～です」をほとんど使いませんでした。「～であります」とか「～でございます」のような話し方が主流で、「～です」は、まだ本格的なテレビ・デビューを果たせませんでした。それでも、「～です」は負けませんでした。

それは、「～です」が、簡単明瞭とか、響きが良いとかだけではなく、ことばとし

## ボクとワタシのことば ばなし

ての機能性では、ダントツに優れていたからです。日本語の断定の助動詞問題を、一挙に解決するんです。たぶん当時の放送用語にならなかった理由は、その生い立ちです。でも、生い立ちなんて関係ありませんでした。「～です」は、それをものともしない力を備えるまで成長していました。差別をはねのけ、放送用語になり、丁寧語の地位を獲得しました。長い時間がかかったけど、立派です。

好ましくないと言われた「～です」が、そんな地位まで上りつめることなんて、明治時代の女性たちには、考えられなかったことでしょう。

女性たちの中には、お客様の男性とホントの恋をした人がいたかもしれません。

「好きです」

二人きりで恋を語らう時の「～です」。いいですね。

「～です」は、近代女性が生み出した日本語のエースで～す。

## ♪「いらっしゃいませ」的命令♪

**も**

うひとつの「です・ます体」、  
「～ます」のことも、ちょっと  
だけお話しします。

「～ます」は、「～です」と同じように助動詞で、状態を表す丁寧語です。動詞連用形とセットで使います。「～です」が、名詞と形容詞の後につくのに対して、「～ます」は動詞専用助動詞になります。名詞とセットにする時は、「動作（し）ます」のように、必ず名詞を動詞化して使います。

「～ます」のルーツは、「申す」から来たという説や「まるらする」が変化したという説があります。主に近畿地方で使われている「～おます」は、「～御座（おわす）」から来ているそうです。「～います」

「～おます」は、東日本と西日本のことばのちがいを示した「いる・おる分布」と、同じような地域に分布してい（お）るのかもしれませんがね。

それから、「いらっしゃいませ」の「～ませ」は、「～ます」の命令形活用です。「～しませ」のように、やんわりとした女性的命令に使いました。とは言っても、命令形ですから、お客様にやんわりと命令する「いらっしゃいませ」は、文法的には、どうなのかなあ感がある日本語です。

ちょっと困った  
「新東京ことば」



**東**

京の情報発信力は、日本で一番優れています。テレビ、雑誌、インターネット、何をとっても、東京の発信力にかなう地域はありません。「話しことば」も圧倒的に強いその発信力で、アツという間に全国区になることがあります。

「新東京ことば」という呼び名があるそうです。若者たちが使っている新語を集めた本があるくらいで、その豊富さにはビックリします。ワタシがここで話すのは、東京が発信する日本語の、好影響と悪影響についてです。

## ♪「ヤバい」のは、あなたたちよ！♪

**ウ**

ザい  
ダサい  
キモい  
エグい

ヤバい

テレビ画面の中で、出演者が何気に発したことばが、耳に飛び込んで来ることがあ

## ボクとワタシの ことば ばなし

ります。東京の日常的な言語環境の変化の波が激しく、そこで生まれた「新母語 (New Native Language)」のようなことばが、メディアを通して全国に発信されます。かつてテレビは、「共通語」の普及に大きな役割を果たしました。でも、今や「新東京ことば」の発信ツールのような役割を演じている印象を受けます。

「ウザい」に代表される形容詞系のことばは、「ウザッ」のような「い」の促音化と、「ウゼエ」のような「アイ音」の「エ音」化を含んでいます。その特徴の一つは、「ヤバい」「ダサい」「キモい」「エロい」など、主に男性が使っていた形容詞を、女性も使うようになったことです。ワタシは、やはり大きな違和感を感じます。

性詞という言語分岐は、どの言語にも見られます。「男ことば」「女ことば」は日本語の場合、語尾の助詞や使用する用語で分かれる傾向にありました。善し悪しはともかく、使うことばで「男らしさ」「女らしさ」を表現して来たのです。

## ♪短文化の悪しき副産物♪

**こ** れらのことばが問題なのは、形容詞という感覚表現を使った差別語、軽蔑語としての機能があることです。感覚表現のため、その根拠は曖昧です。しかも、英語で“No”と言えば済むところを、わざわざ「ウザい」と言って相手を傷つけるために使う。故意に使うから、悪意や敵意を表明することばになるのです。

ワタシたちは、これらの形容詞系の蔑視表現の氾濫を、好ましくないとする立場に立っています。平安時代以来の古和語もあるようですが、現代社会に照らして、適切な日本語とは言えません。歴史を笠に着て使い続けてほしくないのです。「悪質語

という括りを作っても良いほどです。ワタシたちは、「表現の自由」を大切と考えています。でも、それよりも大切なのは、「人権」です。悪意を持って人を傷つけることばを使うことは、「人権」を侵害する行為に相当する場合があります。「誹謗中傷」は厳禁なのです。

これらのことばは、ネット社会による日本語の短文化が生んだ、最も弊害の大きい副産物の一つです。そのことばの発信源を特定することは難しいとしても、少なくとも東京発で、ルーズに全世界にまき散らしてほしくありません。

## ♪楽しんでやえる ことばたち♪

**か** つて江戸の下町で使われていたことばには、いくつかの特徴があったようです。ワタシたちは、古い江戸のことばを「江戸町人ことば (People's Language in Edo)」と呼んでいます。古典落語や歌舞伎にそのエキスは残されていて、一定の文化的価値を持っています。

「江戸町人ことば」は、消滅が心配されるほど、衰退していると言われています。「べらんめえ調」「べえべえことば」と言われるような話し方は、ほとんどなくなったと言って良いでしょう。その意味では、江戸の落語は貴重な言語文化です。

その特徴の一つは、「べえ」系のことばで、「行くんべえ」のような話し方です。こういう言い方は消滅傾向ですが、「イ音」が「エ音」化は、脈々と生き延びています。「すげえ」「だせえ」「いらねえ」「やべえ」「ひでえ」「おもしれえ」など、主に男性ことばとして使われています。「うるせえ」は、「っせえんだよ」のようになると、困ったちゃんですねえ。「おめえら」ってのも、どうしたもんでしょう。

## ボクとワタシの ことば ばなし

二つ目は、「アイ」音と「エイ」音が、「エー」音化することばです。「試合（シエー）」「挨拶（エーサツ）」「具合（グエー）」なんて、今ではほとんど言いませんよね。「愛」を「エー」という人も、たぶんいないでしょう。「稽古（ケーコ）」「学生（ガクセイ）」は、ありかもしれません。だから、消滅傾向？ とんでもありません。「name（ネーム）」「mail（メール）」なんて、外国語まで巻き込んで使っています。「cake（ケーキ）」なんかもあります。シブといですよええ。

三つ目は、「ノ」音や「ラ（ル）」音の「ン（發音）」音化です。「そうなんです」「すごいんです」「わかんない」「つままない」。ほぼ全国展開で広がってる用法です。「アンタンち」なんて、文字で書くと意味が分かりません。「あなたの家」って書かないとね。「二」音が「ン」音化すると、「こんなン」「そっちン」って何なん？

「新東京ことば」の代表格は、たぶん「～ちゃった（ちゃう）」と「アタシ」でしょう。「～ちゃった（ちゃう）」は、「～ちまった（ちまう）」からの音韻変化なのでしょう。ほぼ全国展開していることばのひとつです。ことば自体に毒性はないので、使いたい人は使えば良いと思います。ワタシも、使っちゃってます。ただ、東京気取りで使うのは、やめといた方が良いでしょうね。

「アタシ」は、ワタシたちの歴史科学研究班にアタシちゃんがあります。ちなみに、ワタシは「アタシ」とは言いません。でも、将来は「アタシ」が主流になるかもしれませんね。「アタシャ」「アタイ」みたいな言い方があって、「アタシ」は生まれたんでしょう。「アタクシ」という人もいますみたいで、日本語ってホントにおもしろいで

すねえ。何度も言いますが、ワタシは「ワタシ」です♪

## ♪言って良いこと悪いこと♪

ワ

タシは、「新東京ことば」が全部ダメなんて言いません。楽しいことばが、いっぱいあります。ワタシも使ってます。でも、使って良いことばとダメなことばは、わきまえて使いたいと思っています。

普段のお話でも、言って良いことと悪いことがあるように、ことばの使い方を考えるきっかけになってくれたら、うれしく思います。

## 言語スイッチを切り替える



S

NS、DNA、AED、GDP、IOC、PKO、LED、TPP、AKB、NMB、CEO……。どんな外国語の略語なのか、日本語では何と言うのか、みなさん、お分かりですか？

「by ボク」「in ニッポン」「10% OFF」「得々SALE」「詳しくはWEBで」……。ボクたちのまわりには、アルファベットが溢れ、増殖細胞みたいに進化して、膨れ上がっています。TOKYO、KYOTOのような、日本語のアルファベット表記も氾濫しています。

ただでさえ文字数が多い日本語に、アルファベットが加わり、言語として日本語は、とっても混乱した状態にある、とボクは思っています。ボクたちは、アルファベットとどうお付き合いすれば良いでしょう。

## ♪ローマ字表記の日本語は♪

日

本語をローマ字にして、外国人でも読めるように書いた、ヘボンという人がいます。江戸時代の終わり頃の人です。日本語辞書を作りました。ボクたちがパソコンで文字入力する時に使うローマ字入力は、ヘボン式という表記法を基礎にしています。入力の時は、とても便利ですね。カナ入力の50音配列を覚える必要がないし、濁音や促音を入力する時の面倒な操作も、気にする必要はありません。

でも、入力した文字がそのまま反映されて、ローマ字だけで書いた日本語 (Rōmaji dake de kaita Nihongo) を見せられたら、ものすごく混乱すると思います。ローマ字表記で日本語を読む訓練を、ほとんどの日本人はしていないからです。明治時代の初めに、日本語文字をローマ字にしようとする主張の人がいましたが、実現していたら、エライことだったでしょうね。

## ♪アルファベットは「第二の漢字」♪

—

昔前、やたらに漢字だらけの文章が、立派な日本語文章のように思われていた時代がありました。ひらがなが時々入るくらいで、ほとんど漢文に近い文章でした。でも、その文章は中国語ではないので、中国人にとってはおかしい文章になります。

明治時代中期以降の日本語配列展開傾向を検証考察

こんな感じの日本語です。こういう書き方を脱皮し、ひらがなをふんだんに盛り込んで、できるだけ分かりやすく書こうとするのが、今の日本語文章の傾向です。でも、一皮むくと、事情は全然ちがいます。

アルファベットは、「第二の漢字」のように日本語に入り込んでいます。結果として、こんな日本語文章ができてしまい、ボクたちを混乱させるのです。

マーケットに対する Segmentation をクリアにするコンセプトとして、商品性能の優位性より、顧客の Value 認識が早いのか遅いのか、・・・

私たちは、innovation を志す企業との commitment を大切にし、・・・

困ったものです。中国語風日本語に代わって、英語風日本語が書かれるようになり、「どこのことばだ！」状態になっているのです。これでは、中国人も日本人も読めない漢語文と同じように、アメリカ人も日本人も読めない、妙ちくりんな暗号文みたいになるじゃないですか！

## ♪日本語メタボへの対処法♪

日

本語は、とてもふところの深い言語だ、とボクたちは思っています。でも、いくらふところが深い言語でも、世界中の言語の要素を受け入れることなんて、できっこありません。日本語に何もかも詰め込んだのでは、日本語はパンクします。今の日本語は、完全にメタボ状態です。「日本語メタボ症候群」と名付けようと思えます。

この状態を脱却するためには、無理して日本語にアルファベット語を組み込まず、ちゃんと外国語で書いた方が、よっぽど良いとボクたちは思っています。

We will respect our commitment to the innovational companies.

## ボクとワタシの ことば ばなし

あるいは、日本語として分かりやすく書くかです。

私たちは、革新的な事業展開を志す企業とのおつき合いを大切にし、・・・

この言語スイッチの切り替えが、中途半端なまま日本語が展開されるから、「日本語メタボ症候群」が加速されるのです。

ボクたちは、古い日本語に回帰すべきという、日本語ナショナリズムを振りかざすつもりはありません。言語は、さまざまな言語との交わりを通して、変化して行くものです。その波にもまれて、様変わりして行くものでしょう。でも、その結果が、一部の人には理解できても、大多数の人には理解できない言語になっては、機能不全に陥るのです。まさに「メタボ」です。

ボクたちは、日本語の現状に照らして、日本語は日本語、英語は英語として学習することが望ましい、とする政府方針に賛同します。ただし、その負担に子供たちが耐えられるかは、別問題です。分かりやすい日本語の追求は、やはり必要なのです。

## “I think” と 「思う」の対話



あ

る外国人が、一冊の本を持って来て、ワタシに読むことを勧めてくれたとします。その人は、こんな英語を使いました。

I think this book will be good for you to read.

みなさんは、どんなふうに日本語に翻訳しますか？

直訳すると、「この本は、あなたのために、読んで良い本だと、ワタシは思います」でしょう。直訳ではおもしろ味がないので、「この本、良い本だよ」とか、「この本、君にオススメだよ」と訳す人も、いるかもしれませんね。

この英語では、一番最初に“I think”と書いています。直訳した時の「～とワタシは思います」ですね。後の二つの訳し方では、「～だよ」ですが、ほとんど訳されていないのと同じです。この“I think”って、いったい何なのでしょう？

### ♪「思う」という日本語♪

ワ

タシたちは、“I think”を日本語にする時、「～と 생각합니다」と訳するのが普通です。“think”は「考える」ですから、本当は「～と考えます」と訳した方が、正確なのでしょう。でも、「～と考えます」だと、何となくかた苦しいし、普段は使わないので、「～と 생각합니다」にしてしまいます。

「思う」「思い」という日本語は、「片思い」とか「思いやり」とか「思いが通じる」のように、気持ちを指しています。普段はことばに出さなかったり、ことばにできなかったりする気持ちのことで、「恥ずかしいから言えない」「言ったら怒られる」のように、一人で抱えている気持ちを、日本語では「思い」と言います。

その「思い」「思う」を英語にしようとする、たぶん頭を抱えてしまうでしょう。“like”なのか、“love”なのか、“feel”なのか、“hope”なのか、“image”なのか、“dream”なのか、それとも、“think”なのか。「思い」「思う」は、ものすごくバフっとしすぎています。

## ボクとワタシの ことば ばなし

「これ、どう？」という質問に対して、「良いと思います」と言う人が、時々いますよね。その時の「～思います」は、「ワタシは好き(like)」なのか、「良い感じ(feel)」なのか、「良い考え(think)」なのか、投げやりに言っているのか、全然わかりません。それくらい「～思います」は、バフっとしています。

## ♪理屈に弱い日本語♪

自

分の「考え」を伝えるために、「I think」はあります。好き嫌いを伝えたいのでも、フィーリングを伝えたいのでもありません。一つの物事や出来事に対して、自分は《どう考える》かが「I think」で、《どう思う》かではありません。日本語は、気持ちや感情を伝えることには、とても優れています。でも、自分の考えや意見を理論立てて話すことは、とても苦手で不向きです。聞く方も慣れていないので、「屁理屈言うな」とか、「理屈っぽい」とか、すぐに言われます。「世の中、理屈じゃない」とか、「杓子定規じゃ困る」とか、「下手な考え、休むに似たり」とか、「アタシ、そういうの苦手」とか言って、「考え(I think)」に耳を傾けようとしなない人は、日本中に山ほどいるのです。

確かに「考え(I think)」は、「屁理屈」かもしれません。でも、英語では、初めから「I think」と言うことで、「論理言語宣言」をします。「これから、ワタシの理屈を言いますよ」が、「I think」です。その論理回路に出くわすと、日本語は、どうしても逃げ腰になりがちです。「屁理屈を言うな」は、それくらい日本語が、論理に弱いから出て来ることばです。その人の知識や能力や性格の問題というより、言語としての日本語の問題なのです。

## ♪「考え」を伝えるために♪

最

近、「～と考えています」という日本語を、時々耳にします。言うのはたいてい、お役人さんか、会社とかのエライ人です。何となく上から目線を感じて、違和感があります。それに、「私 (I)」ではなく「私たち (We)」の考え方を言っているようで、疲れます。「誰の考えなの？」と言いたくなってしまう。「～と考えています」は、「I think」になっていないのです。

では、どうすれば良いのでしょうか。ワタシたちは、「私の考え (で) は、・・・」のように、冒頭から「論理言語宣言」した方が、「I think」に近いのではないかと推奨しています。

学校の授業で、自分の意見を求められるのは、良くある授業パターンです。一つのテーマをグループワークで話し合い、それぞれの意見を言うこともあれば、先生の質問に手を挙げて、自分の意見を言うパターンもあります。

そういう時の意見発表は、「～と思います」では、やや曖昧な感じですが。

「私 (僕) の考えは、～です」と言った方が、はっきりと意見が伝わると思いませんか？

ワタシたちの考えは、日本語をより良いものにすることです。その具体的な例示を導くための実践研究が、ワタシたちの日本語研究です。



## ボクとワタシの ことば ばなし



続編はちょっぴり固いお話

### 第1話

- ・ことばとリズムのお話
- ・オノマトペを探検しちゃえ
- ・日本語は二刀流だよ
- ・明治翻訳語を今ドキ評価だ

### 第2話

- ・残されないことば
- ・「共通語」がやっぱ変だべさ
- ・「噂ことば」と「仕事ことば」

### 第4話

- ・世界の言語と日本語
- ・言語環境と言語生活
- ・文字の歴史

### 第5話

- ・心の風景と日本語
- ・これからの日本語

### ボクとワタシの言語対談

- ・めちゃんこファンタジー

#### ●参考になさって頂いた辞書や本です●

- ・新村出編『広辞苑 第二版補訂版』（昭和57年10月、岩波書店）
- ・中田祝夫編『新選古語辞典』（昭和44年4月、小学館）
- ・亀井孝、河野六郎、千野栄一編著『言語学大辞典セレクション 日本列島の言語』（1997年1月、三省堂）

#### シンキング・バース新書

### ボクとワタシの ことば ばなし 第3話

2017年9月30日（初版）発行

著者：シンキング・バース  
日本語研究班  
発行者：遊佐 芳泰

発行所：シンキング・バース  
〒021-0821  
岩手県一関市三関字神田105番5号  
電話／FAX 0191-23-0724

※この論考の著作権は、図表を含めてシンキング・バースに帰属しています。複写、無断転載、無断転用は固くお断りします。